平成 27 年 12 月 18 日

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2015 年第 50 週 (12/7～12/13)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report　　岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

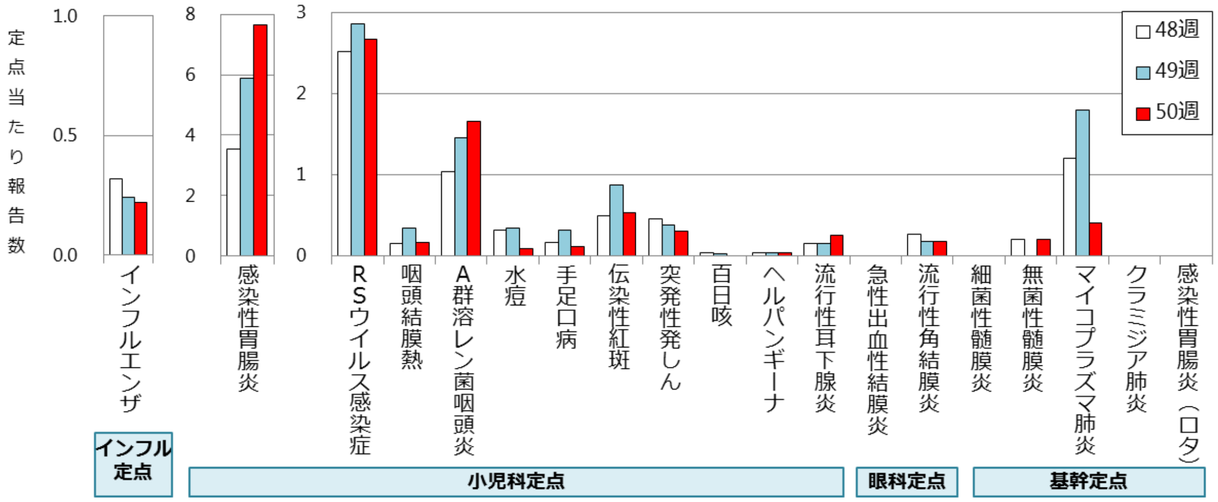
- ✧ ＲＳウイルス感染症は前週からほぼ横ばいの高いレベルで推移しています。
- ✧ 感染性胃腸炎が増加しています。ノロウイルス感染に注意が必要です。→トピックス
- ✧ Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しています。→トピックス
- ✧ 伝染性紅斑は継続して患者が報告されていますので、今後も注意が必要です。

■定点把握対象疾患（ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

●警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警 報 レ ベ ル	なし	―
注意報レベル	なし	―

●直近 3 週の比較



■全数把握対象疾患

●今週届出分

１類感染症：なし　　２類感染症：結核 10 例

３類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例（O26）　　４類感染症：ツツガムシ病 2 例

５類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 2 例、梅毒 1 例

●2015 年累計

1 類感染症	なし			
2 類感染症	結核	404 例		
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	27 例	腸チフス	1 例
4 類感染症	つつが虫病	15 例	マラリア	1 例
	デング熱	6 例	レジオネラ症	26 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	16 例	侵襲性肺炎球菌感染症	39 例
	ウイルス性肝炎	3 例	水痘（入院例）	7 例
	ｶﾙﾊﾞﾍﾟﾈﾑ耐性腸内細菌科細菌感染症	8 例	梅毒	17 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例	播種性クリプトコックス症	4 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風	1 例
	後天性免疫不全症候群	23 例	風しん	1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	麻しん	1 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例		

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR）　http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html

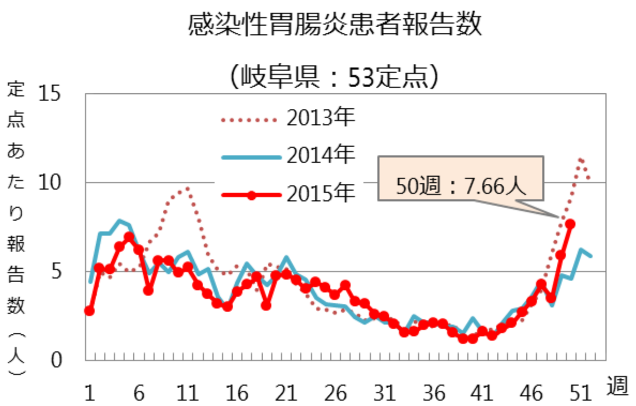
■トピックス

《感染性胃腸炎》

◆ 県内で患者が増加しています

県内 53 の小児科定点医療機関から報告される感染性胃腸炎患者の数は、12 月に入り大きく増加しており、第 50 週は 406 人（定点当たり 7.66 人）となっています。

ノロウイルスによる患者がさらに増加する可能性がありますので、今後の動向に注意が必要です。



◆ ノロウイルス対策を徹底しましょう

ノロウイルスは、主に感染者の便や嘔吐物から手などを介して感染が広がります。感染力が強いため、徹底した対策が必要です。特に、保育所や幼稚園、高齢者施設などでは集団感染を起こさないように注意が必要です。

また、ノロウイルスは食品を汚染することにより食中毒も起こしますので、調理を行う人は、食中毒対策にも十分な配慮が必要です。

ノロウイルスの感染・食中毒を予防するために

★ 手洗い

トイレの後、調理前、食事前、汚物処理後などには、石けんと流水でしっかり手を洗い、手についたウイルスを落とします。手洗いは最も重要な予防方法です。

★ 汚物の処理は適切に

患者の嘔吐物や便を処理する場合は、使い捨てのマスクや手袋を使用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取った後、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）で消毒を行います。

★ 調理器具などの消毒は次亜塩素酸ナトリウムまたは熱湯で

調理器具、患者の便や嘔吐物で汚染された衣類・タオルなどなどは、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）または 85℃・1 分間以上の加熱により消毒します。

★ 食品はしっかり加熱

加熱が必要な食品は中まで十分に火を通します。

★ 下痢や嘔吐の症状のある人は調理を控える

ノロウイルス感染が疑われる人は、調理を控えることが安全です。

★感染症法における取扱い

感染性胃腸炎は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 3,100 か所（岐阜県 53 か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html

（保健医療課 HP）

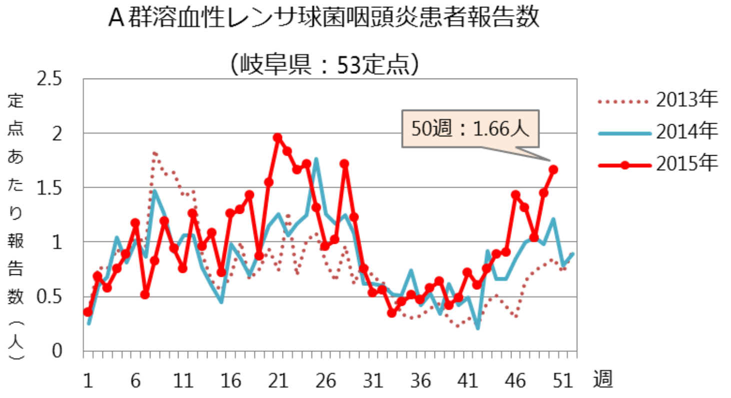
《Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎》

◆ 冬期の流行にも注意が必要です

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、年間を通じて患者がみられますが、冬期と初夏に増加します。

県内 53 の小児科定点医療機関からの患者報告数は、今年 11 月以降増加しており、過去 2 シーズンより高いレベルで推移しています。

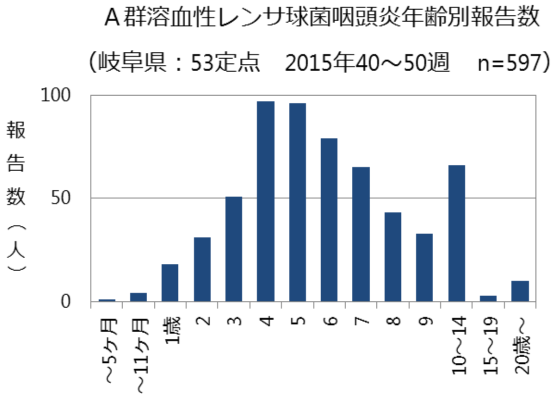
患者の年齢は 4～5 歳をピークに、0 歳から 10 歳以上まで幅広い年齢層で報告されています。



◆ 手洗いを励行し感染予防を

原因菌であるＡ群溶血性レンサ球菌は、患者の鼻水や唾液に排出され、飛沫感染（咳やくしゃみのしぶきを吸い込む）や接触感染（菌のついた手で口や鼻を触る）により感染が拡大します。

予防のために、手洗い・うがいを励行し、兄弟など身近に患者がいる場合は濃厚な接触は避けることが重要です。



★Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

Ａ群溶血性レンサ球菌の感染による感染症です。2～5 日の潜伏期の後、突然の発熱とのどの痛みで発症し、嘔吐を伴うこともあります。治療には抗生物質が有効ですので、早めの受診が大切です。

★感染症法における取扱い

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 3,100 か所（岐阜県 53 か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html
（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センターHP
http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/